

欧州複合危機—EUはどこに行くのか

欧州は危機にある。なかには、EU（欧州連合）の瓦解を語るものもいる。無理もない。もともとユーロ圏が深刻な危機に見舞われていたところ、ウクライナ危機が始まり、またギリシャ発でユーロ危機が二度も再燃した。そのうち、中近東から100万を超える大量の難民が押し寄せ、3000人以上の難民がその過程で命を落とし、域内の自由移動をつかさどるシェンゲン体制が機能不全に陥り、しまいにはパリとブリュッセルにおいて同時テロ事件が発生した。並行して今は、脱退を問う国民投票を経てイギリスとEUとの関係が焦点になっている。

この講演では、これらを「複合危機」としてとらえ、歴史的な文脈に照らして検討し、政治的な要因を分析し、内的な連関を探る。そうすることで、どんな意味で「危機」なのか、なぜそのような状態にあるのか、どうなっていくのか、について一通り見当をつけられるようにしたい。

■日 時： 11月26日（土）15：10～18：00

■場 所： 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス図書館ホール

■講 師： 遠藤 乾 氏

北海道大学大学院法学研究科・公共政策大学院教授

■参加費：無料（一般参加可、申し込み手続き不要）

<講師プロフィール>

1966年東京生まれ。オックスフォード大学政治学博士（D.Phil）。政治学、国際政治、とくにEU研究、安全保障を専門とする。著書に『統合の終焉』（岩波書店、2013年、読売・吉野作造賞）、

Presidency of the European Commission under Jacques Delors: The Politics of Leadership (Macmillan, 1998)。

編著に『ヨーロッパ統合史』（名古屋大学出版会、2008年）、『複数のヨーロッパ』（北海道大学出版会、2011年）、『EUの規制力』（日本経済評論社、2012年）など。

全8巻の岩波シリーズ「日本の安全保障」（2014—15）の共同編集代表、朝日新聞論壇委員、毎日新聞の時論フォーラム連載中、週刊東洋経済書評委員、外務省政策評価アドバイザリーボードメンバー

